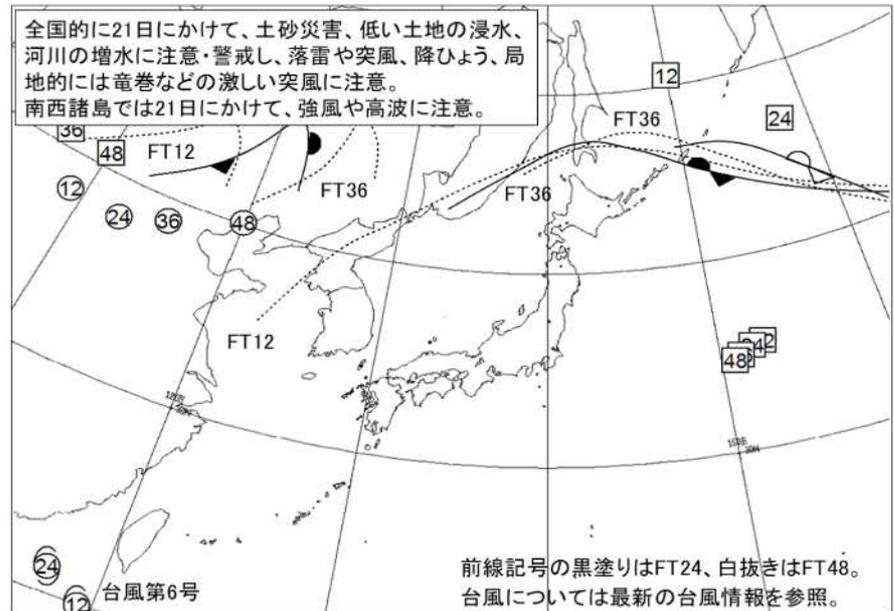


1. 実況上の着目点

- ① 太平洋高気圧が日本の東から本州付近へ張り出し、高気圧の縁辺では下層暖湿気が流れ込んでいる。西～東日本の太平洋側ではやや強い雨や強い雨、九州の西では非常に激しい雨を解析し、雷を検知。
- ② 前線が黄海～沿海州付近～オホーツク海～日本のはるか東にのびている。前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、北海道地方では激しい雨を解析。
- ③ 台風第6号がバシー海峡を西進。南西諸島周辺では強い雨を解析し、海上ではうねりを伴っている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、21日にかけて本州付近への張り出しを強める。高気圧に覆われるため、西～北日本では21日にかけて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。日中の昇温の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。また、これまでの大雨で地盤の緩んでいる所もあることに注意。西～東日本では21日にかけて、北日本では20～21日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の前線は、20日にかけて沿海州から千島近海に停滞する。前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。北海道地方では、20日にかけて土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項③の台風第6号は発達しながら、南シナ海を通過して、21日にかけてトンキン湾付近へ進む。台風と2項①の高気圧との間では、下層暖湿気が流れ込み大気の状態が不安定となるため、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなるため、強い風が吹き、うねりを伴ってしける所がある。南西諸島では21日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、強風、高波に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(06時からの24時間)：北海道100mm。② 波浪(明日まで)：沖縄5、奄美4m。③ 高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。